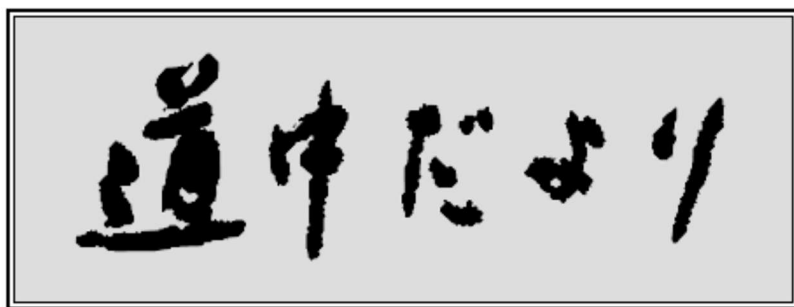




第 384 号

令和5年11月9日発行

- 巻 頭 言
- 第64回北海道中学校長会
研究大会小樽大会
- 論 文
- 文 芸
- さ り な が ら
- 前期情報・事務局日誌



「焼尻島から日本海を望む」 羽幌町立羽幌中学校 関根 智



懐かしい夏休みの記憶

北海道中学校長会 副会長 長谷川 秀 雄

子供の頃、夏休みは母そして弟妹と一緒に、母が生まれ育った東北、山形県の小さな村で過ごすのが夏休みの記憶です。

上野駅から特急に乗り、座席を向かい合わせにして母が作ってきたお弁当と車内販売の冷凍ミカンを食べ、母の実家に向かいました。山形県から、ローカル線とバスを乗り継ぎ、やっと到着した村は出羽三山である月山の麓にある山間の村でした（現在はダムとなっています）。お盆に父が迎えに来るまでの約3週間を過ごしました。

日中は川で泳ぎ、魚をヤスでついたり、虫を捕まえたり、また近所の子供たちと賑やかに遊んだり、毎日がわくわくすることばかりでした。川で泳げるのは村に一軒だけあるお店の櫓に白旗が掲げられているときで、朝ご飯を食べ、夏休みの宿題に取り組んだ後に見に行きました。母は祖父母や友人たちと方言で話すので、外国語を話しているようで、内容はほとんど理解できませんでした。方言で話している母の表情はとても幸せそうでした。

私は子供の頃、なんて贅沢な夏休みを過ごさせてもらったのだらうと、自分が生まれ育った環境、時代に感謝しています。今年の夏休みは例年と大きく異なり、本州とまで

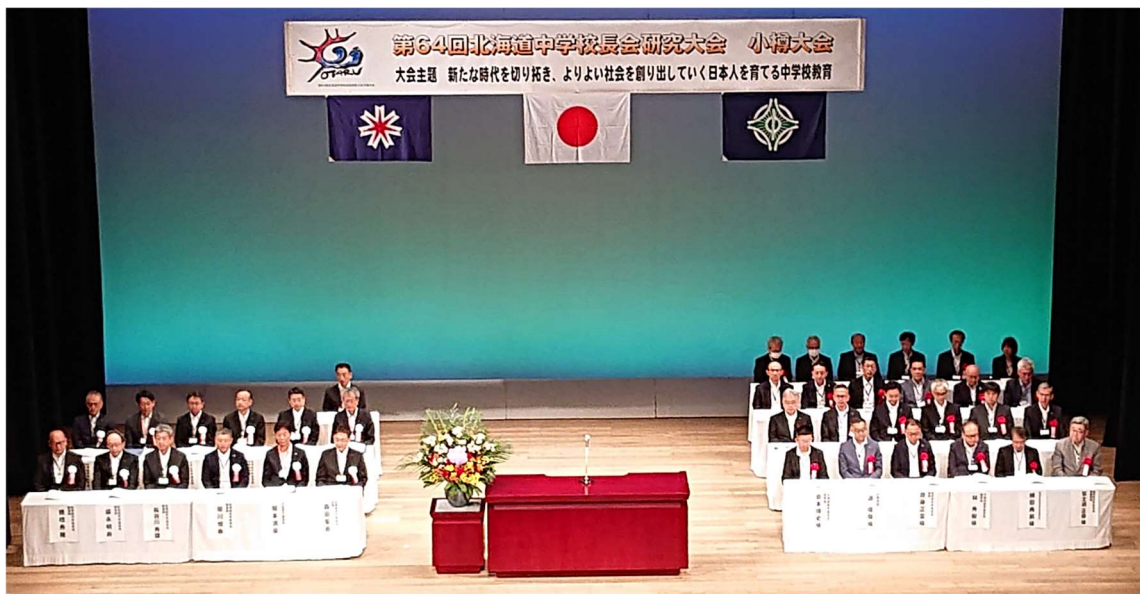
はいきませんが、酷暑の日が何日も何日も続きました。私が勤める函館市では猛暑日の予報のために、始業式を臨時休業にするなど、異例の夏となりました。

先日、道小の研究大会北斗大会で、全連小の小泉事務局長とお話する機会がありました。「夏休みが終わり、子供たちの日焼けした顔を楽しみにしていたが、日焼けした顔はほんの少しだった。今年の夏は猛烈な暑さのために外で遊ぶ機会が極端に少なかったのかな」と。

冷涼な夏の北海道も、例外とは言っていられなくなりそうです。公立小中学校の冷房設置率全国最下位（4.3%）の北海道（令和2年度文科省調査）ですが、学校の教室等への冷房の早期整備を求める保護者等の声がこれまでに大きく広がっています。屋外での授業や部活動も、子供たちの命の安全を最優先にした配慮、工夫が必要となり、家庭や地域での子供たちの遊び、遊び方、遊ぶ時間も大きく変化していくのだらうと残念な気持ちになります。

屋外で暑さなど気にせず走り回り、毎日がわくわくすることばかりの夏休みが遙か遠く昔のことで、懐かしく思えてなりません。

第 64 回北海道中学校長会研究大会 小樽大会



第 64 回研究大会挨拶

小樽大会実行委員長

岡 本 清 豪



皆様、おはようございます。

本研究大会の実行委員長を務めさせていただきます。小樽市中学校長会の岡本でございます。実行委員会を代表して一言御挨拶申し上げます。

思い起こせば、4年前、2019年12月。中国・武漢市で報告された原因不明の肺炎は、「COVID-19」と名付けられ、あっという間に世界中に拡散しました。翌年3月、感染者急増を受け、政府から「緊急事態宣言」が出されました。そんな状況下でも、私たち校長は、創意あふれる学校経営と校長としての使命の下、生徒・保護者が安全で安心できる生活と「教育の質の向上」、その両輪を推進してきました。一昨年の第63回宗谷・稚内大会、昨年の全日中札幌大会がオンラインを通して開催・実施・発信されたことが、まさに、その大きな大きな成果でありました。

その宗谷・稚内大会を引き継ぎ、4年ぶりに会で行われるこの中学校長研究大会を、昨年、市制100周年を、そして、今年、小樽市民が守った「街のほこり」である、小樽運河100周年の大きな節目を迎える、歴史と伝統の街、ここ小樽市において開催できることは、この上ない喜びであります。

また、開会式には、公務御多用の中、北海道教育庁後志教育局局長 新居雅人様、小樽市長 迫俊哉様、全日本中学校長会会長 齊藤正富様、小樽市教育委員会教育長 林秀樹様、後志町村教育委員会協議会会長 細田典男様をはじめ、本当に多くの御来賓の皆様の御臨席を賜りました。衷心よりお礼申し上げます。

さて、本大会は、「新たな時代を切り開き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を基本主題とする、4カ年継続研究の3年次にあたる大会です。

今日、わが国は人口減少等の深刻な課題を抱える一方で、情報化・AI等の急速な進展により、将来を予測することが困難な時代に直面しています。中学校現場においても、いじめ、学校不適応、特別な支援を要する生徒への対応など、課題は多岐に渡り、同時に働き方改革への対応も、待ったなしという状況です。

今年度策定された北海道教育推進計画に、道が目指す教育の基本理念は、「本道の将来を担う子どもたちが、生まれ育った地域や環境、障がいの有無等に関わらず、夢と希望にあふれ健やかに成長できるよう」にすると示されています。

そこにこそ、私たちが、学習指導要領が示す資質能力の育成と、学校力向上のために全力を注ぐべき意味があるのだと思います。

これまで、小樽大会に向けて私たち実行委員会は、小学校長会とも連携し、チーム小樽で、質の高い学校経営を実現できる研究大会となるよう、心を込めて準備にあたっていました。今大会のシンボルマークも、ニシン漁で栄えた小樽の海と波をイメージし、私たちが「和」をもってチームとなり、新しい時代の教育実践を着実に積み重ねていく「強い決意と願い」を象徴的に込めたものとなっています。

本大会が、まさに道中学校長会会員の皆様の「和」と「強い決意」が体現する、充実した研究大会となり、各学校の教育課題の解決につながっていく大会となることを切に願っております。

そして、森田会長のお言葉にありますように、一人一人の子供を主語にする学校教育につながる大会となるよう、覚悟をもって、実行委員全員の総力をあげて、大会運営にあたりたいと決意しております。

結びになりますが、この度の実行委員会を進めるにあたり、様々な面から御指導・御助言賜りました北海道教育委員会、北海道教育委員会後志教育局、小樽市教育委員会、小樽市PTA連合会、その他関係機関の皆様にご心から感謝申し上げます。開会の挨拶とします。

2日間、どうぞよろしくお願いいたします。

提言の概要

第1分科会

司会を終えて

「社会に開かれた教育課程」 の実現

苫前町立苫前中学校 西山 智 章



1 はじめに

各学校において、必要な学習内容の学び方や身に付けさせる資質・能力を教育課程において明確にしながら、社会との連携や協働による「社会に開かれた教育課程」の実現が求められ、校長は、家庭や地域社会と協力しながら学校の特色を生かした創意工夫に基づく教育活動を推進していく必要がある。

2 研究内容

留萌地区の研究主題は「主体的・協働的に学び、よりよい社会を創り出す力を育む小中学校教育の推進」であり、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、教育活動の改善につながるカリキュラム・マネジメントの充実と、学習者の視点による授業改善とを両軸として学校教育の質の向上を図っていくこととしている。研究の進め方としては、自校の課題に応じた解決策や新たな取組の実施に向けた、校長の具体的な実践について、会員相互で検討・交流し、有効な手だてなどを明らかにしていく。

この提言では、これまでの実践の中から「主体性を育むカリキュラム・マネジメントと、地域・家庭との校則の見直しの共有」、「地域の教育力による総合的な学習の時間」、「外部人材と連携した授業改善や年間指導計画の見直し」の3つを紹介した。

3 研究の成果と課題

- 学校経営方針の具現化のため、早くから保護者・地域と教育課程を共有したことにより、理解と協力が得られ、この過程の重要性が実感できた。
- 各校の実践交流を通じて、「人・物・金」といった教育財産の獲得のため、校長自らがアクティブに動くことの重要性を確認できた。
- 価値観の多様化やグローバル化への柔軟な対応力や、自ら課題を見付けて協働しながら解決する力は、校長にとっても必要とされるものである。

<研究の視点>

学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施

- ①地域等の外部の人的・物的資源を有効活用した特色ある教育課程の編成・実施
- ②家庭や地域社会との連携・協働を深める教育課程の編成・実施

天塩町立天塩中学校 嶋 本 敏 幸
遠別町立遠別中学校 田 谷 典 久

家庭・地域との連携や外部人材を活用した教育課程の編成・実施について、留萌管内小中学校長会の研究提言を基に、各地区・各学校の現状や実践の交流が行われた。

提言の中では以下の3つの実践が発表された。

- ◇学校統合を契機とした生徒の主体性の伸長を柱としたカリキュラム・マネジメントと、生徒や保護者・地域を巻き込んだ校則の見直し
- ◇生徒の探求的な学びを重視した3年間を見通したテーマや目標の設定と、地域人材の活用による生徒の育成を目指した総合的な学習の時間の取組
- ◇スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、パートナー・ティーチャーの役割を明確にして連動させた、特別支援教育の充実や不登校生徒の対応

これらの実践を軸に、教育課程の編成・実施において、「外部の人的・物的資源をどう有効活用するか」、「家庭や地域との連携・協働をどう進めるか」という2つの柱で協議が行われ、課題解決につながる熱心なグループ協議が進められた。

北海道教育庁教育指導監 西口昌司氏からは「提言発表の中『校長がアクティブに対話や参加を』というキーワードが素晴らしい。校長の本気度を伝えるためにも、校長が先頭に立ったり、組織をマネジメントしたりして主体的に動くことが大事である。」との助言をいただいた。また、最後に「協議の様子からトップリーダーは常に学び続けなければならないということを改めて実感した。学校のリーダーである校長は、先生たちの心に、生徒たちの心に響く言葉を届けることもできるように、日々研さんを重ねてほしい。」との激励の言葉をいただき、分科会を終了した。



提言の概要

第2分科会

司会を終えて

新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実

新得町立富村牛小中学校 石 丸 揚一朗



1 はじめに

十勝小・中学校長会では、研究主題を「ふるさと十勝に誇りをもち、よりよい社会を創造する子供を育む小・中学校教育の推進」と設定し、管内で一体的・組織的な研究を進めている。本提言では、学校経営の改善に資する校長の在り方、特に「保護者、地域と連携した地域とともにある学校づくりの推進における校長の役割」について追究した。

2 研究内容

育成を目指す資質・能力や学校課題の地域・家庭との共有について、十勝管内の実態を把握するため、管内全中学校においてアンケート調査を実施した。

アンケート結果を分析・活用により、学校運営協議会や地域学校協働本部が中心となる取組や、関係機関・民間団体等の外部団体との効果的な連携等の取組、学校評価の適切に活用による学校改善プランやロードマップへの反映など、校長としての役割が明確になり、十勝管内全体の学校経営の改善につなげることができた。

3 研究の成果と課題

- 学校運営協議会や様々な外部機関と連携した取組が実践され、多様な地域の特性や学校の実態に合わせた連携・協働が進んだ。
- 学校評価や改善プラン等の活用により、連携・協働の意識を高める工夫が進んだ。
- 地域とともにある学校づくりの推進に関わり、多くの校長のリーダーシップが発揮された。
- 学校と家庭・地域との連携推進のため、目指す子供像や学校課題等のより一層の明確化とビジョンの共有、情報発信に努めなければならない。
- 地域・保護者の意識を高め、学校経営方針の具現化を検証できる学校評価の項目の設定と、校長のリーダーシップの発揮が不可欠である。

<研究の視点>

保護者、地域と連携した開かれた学校経営

- ①学校・家庭・地域が一体となった学力向上
- ②学校評価を活用した学校改善の工夫とその充実

上士幌町立上士幌中学校 新 倉 忠 司
鹿追町立鹿追中学校 上 野 精 嗣

第2分科会では、十勝の提言を受け、研究の視点①②を柱として8グループに分かれ、各地区や各学校の実態や実践を交流し討議を行った。今後の学校経営に資する有意義なものとなった。

視点①について、学校と家庭・地域が、目指す子供像や育成すべき資質・能力を明確にして共通理解を図ることが大切である。また、社会教育からのアプローチを積極的に活用していくことが重要である。学びたい生徒とともに学びたい学生・地域住民との学びの場を公民館に設けるなど、地域の人的・物的財産を積極的に活用する体制を構築する。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の双方からのアプローチが不可欠であるとの考えが示された。

視点②について、ICTの活用により、回答の簡略化、回収率向上、集計・分析力向上を図り、多くの意見に対しスピード感をもって反映することができる。結果の裏にある、地域・保護者・生徒の思いを取りこぼすことなく、学校改善に直結する必要があることが示された。

助言者の北海道立教育研究所人材育成部長 飯塚俊郎氏から、今日、校長には、アセスメントとファシリテーションの力を身に付け「学び続ける教員を支える教員研修」により組織力・チーム力を高め、家庭、地域との連携を図るマネジメント力が求められている。保護者・地域等に学校経営方針や諸調査に基づく学校課題、目指す子供像等のビジョンを明確に示し、地域に協力してほしいことを、学校運営協議会や地域学校協働本部、PTA等に語り、通信やSNS、懇談等の活用、学校評価の評価項目の工夫、参観できる条件整備、熟議の実施、保護者・地域住民の教育活動への参画の取組等を広く発信することが重要であることを助言いただき分科会を終了した。



提言の概要

第3分科会

司会を終えて

豊かな心と健やかな
体を育む教育の充実

せたな町立大成中学校 赤井 優子



1 はじめに

檜山校長会中学校部会では、豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実に向けて、檜山校長会研究大会における研修活動や定期的な年4回の研修及び情報交換によって、今日的な教育課題等を解決するための方策や校長としての役割と指導性について組織的に協議・研究を進めている。

2 研究内容

本研究では、校長のリーダーシップのもと、キャリア教育と進路指導の重要性やその効果等を検証し、「社会的・職業的自立のために必要な能力」の確かな育成について研究を進めた。

令和3年度から檜山校長会中学校部会で取り組んできた「キャリア教育」の研究について、アンケート調査の結果と考察、「職場体験学習」と「地域素材・人材を活用した体験的な学習」の実践や実態を紹介し、成果と課題についてまとめた。

3 研究の成果と課題

「職場体験学習」

- 学校運営協議会や町教委、商工会、事業所との連携ができ、取組の継続と充実がなされた。
- 経営方針に重点として位置づけ、学校運営協議会・PTA役員等からの情報を有効活用しながら関係機関との調整が図られた。
- 日程調整、安全面への配慮、事前打合せや事業所の開拓など、負担を感じている学校が多い。
- 地域事情により、職種が限定され、生徒の選択肢が少ない。また、体験先が遠隔地になることもあり、保護者の負担（移動手段等）が大きい。

「地域素材・人材を活用した体験的な学習」

- 地域素材・人材についての教材研究をすすめ、年間指導計画を見直しながら取組の継続と充実が図られた。
- 具体的実践課題として位置付け、地域との連携を強化し、教育条件等を整備することができた。➤

<研究の視点>

「社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実」

- ①社会的・職業的自立のために必要な能力を育成するキャリア教育の充実
- ②教育活動全体を通じた組織的・計画的な進路指導の充実

乙部町立乙部中学校長 宮腰屋 由
上ノ国町立上ノ国中学校 関田 貴人

第3分科会では、檜山校長会中学校部会の取組を基調提言として「研究の視点①と②」を討議の柱に据え、8グループで協議を行った。

協議では、各地区・学校の実情に応じた具体的な実践交流が行われ、自校の課題解決につながる取組が話し合われ、質問、発表も参加者の協力でスムーズに行われた。

助言者の北海道教育庁後志教育局義務教育指導監田中孝二氏からは、キャリア教育の推進にあたっては、特別活動を要として全教育活動で行うこと、総合的な学習の時間を教育課程の中核に位置付けた教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性について御助言いただいた。



- ●教材研究や外部機関との連携など、業務が広がり負担感が増す恐れがある。
- 校内の効果的な指導体制の構築と整備が必要である。

提言の概要

第4分科会

司会を終えて

多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成と働き方改革の推進

江別市立江陽中学校 信 定 学



1 はじめに

石狩管内小中学校長会では、令和元年度より「自主・協働し、未来を創る石狩の子供を育成する学校教育の推進」を研究基本主題に掲げ、修正を加えながら4年次計画で取り組んできた。

研究推進に当たっては、7市町村校長会それぞれの研修、および管内研究会、ブロック研究会を開催し、協働研究を行ってきている。「石狩はひとつ」をスローガンに連携を密に取り組んでいる。

2 研究の概要

(1)組織を生かすマネジメント力について【柱1】

①ミドルリーダーの把握と育成

人材育成シートを活用した指導機会等の設定

②ランドデザイン策定

全教職員を参画させての策定

③「働き方改革」の取組

勤務実態調査を生かした効果的な PDCA サイクルによる検証と改善策

(2)地域と連携・協働を通じた教員育成【柱2】

①地域に根ざしたキャリア教育

地域の特性を教育課程に活かす取組

②CS と連動した小中一貫教育

校務分掌と連動させたCS の体制づくり

3 研究の成果

- ・これからの社会の課題や子供の実態を多面的に捉えられる教職員育成を推進できた。
- ・学校内外において、経営ビジョンを示し、地域の協力を得ながら教育課程の実現を図ることができた。
- ・持続可能な教育活動とするため、現状を整理することが働き方改革を推し進める結果となった。

<研究の視点>

学校における組織マネジメントや指導の充実を図る研修の推進

①校長のマネジメント能力やリーダーシップを発揮する研修会等の充実

②地域と連携・協働した学校経営に携われる教員の育成

江別市立江別第二中学校 水 崎 理
恵庭市立柏陽中学校 前 田 真 志

第4分科会では、石狩管内小中学校長会の取組について提言発表があり、その後、討議の柱に沿って各地区・各学校の取組について実践交流や自校の課題解決につながる活発なグループ協議が行われた。

助言者の石狩教育局義務教育指導監 安榮智裕氏からは、提言及び協議の柱それぞれに対して、次の助言をいただいた。

【提言について】「組織を生かすマネジメント力について」では、石狩管内で統一した「人材育成シート」を活用して、長期的な視点で研修が行える取組をしている。学校がチームとして、組織として効果的に機能するための組織マネジメントを参考にしていきたい。また、「地域と連携・協働を通じた教員育成」においては、地域との連携が、①学校支援のみになっていないか②目標が共有されているか③課題に対応しているか④人々の当事者意識は高まっているか、の視点での検証が必要である。

【柱1について】道教委が「教員育成の考え方」を初めて示した。職員の心理的安全性を確保するため、①無知の不安②無能の不安③邪魔の不安④否定的不安、を取り除き、①話しやすさ②助け合い③挑戦④新奇歓迎、の観点から変化を捉え、アウトプットの最大化を図ることが大切である。次期教育振興基本計画で示されているウェルビーイングについては、子供たちを高めるために、教師自身が体現してほしい。そのため校長は、①教員としての本質的な学びの姿を改めて理解すること②職員室内の多様性と包摂性を実現すること③教員の個性や長所を「学校を支える力」に高める必要がある。それにより校長として子供たちの豊かな学びを追求してほしい。

【柱2について】学校における働き方改革と学校組織マネジメント、人材育成を一体的に進めることが大切。①「個の気づき」②「チームの対話」③「地域との協働」をポイントとし、目指す学校づくりをしてもらいたい。



提言の概要

第5分科会

司会を終えて

家庭・地域や校種間における
連携・協働の推進

様似町立様似中学校 松 田 陽 一



1 はじめに

日高管内は、地域の実情や子供たちの学び、環境などの現状と課題を把握し、家庭や地域、他校種との連携を積極的に進めている。日高地区校長会の研究課題と研究の視点での取組内容を関連させながら、小中連携・一貫教育の推進について、校長のあるべき姿を探求する組織的な研究を行っている。

2 研究内容

中学校区における「学力向上」と「組織力向上」の実現に向けた校長のリーダーシップを研究課題とし、次の2点についての実態調査と研究を進めた。

- ①「学力向上」の実現に向けた校長のリーダーシップ（授業改善や各種学力調査の活用、家庭学習の取組などを通して）
- ②「組織力向上」の実現に向けた校長のリーダーシップ（方針の明確化と共有化、組織マネジメントと人材育成などを通して）

3 研究の成果と課題

- 学力向上の取組を小中連携で行うことで、子供の9年間の学びの連続性を保障し、子供が安心して学んだり、育成する資質・能力を明確にして授業したりすることの実現が可能になってきている。
- 校長同士がリーダーシップを発揮して組織体制を整備し、役割分担を明確にして小中連携に取り組むことで、一部の中学校区では9年間を通した教育課程の編成が可能になった。
- 合同研修や授業参観など、会同して行う連携事業において、時間の確保と学校間の距離があげられる。特に、複数の小学校を抱える中学校区では、教員の空き時間の確保も含めてなかなか小中連携が進まない状況にある。
- 教員間や学校間の温度差の解消、組織体制の整備の課題がまだまだ大きい。

<研究の視点>

小学校との円滑な接続を目指す小中連携・一貫教育の推進

- ①義務教育9年間を見通した計画的・継続的な教育課程編成に向けた取組の推進
- ②小中一貫教育や校種間連携を活用した教育の充実

えりも町立えりも中学校 中 田 実千代
浦河町立浦河第二中学校 佐 藤 恵 美

第5分科会では、日高地区校長会の取組を基調提言として、提言内容の交流と質疑の後、研究の視点①②を討議の柱に据え、5グループで協議を行った。

質疑では、合同研修会や交換授業の効果、連携する上での時間の確保や校務分掌の交流、さらには教頭の業務など、実践的な課題に対し関心が寄せられていた。

また、協議では、系統表や乗り入れ授業について、さらには小中一貫・連携に向けた具体として管理職同士のつながりやICTの活用、システムづくりの必要性など、様々な取組と効果について紹介された。

助言者の空知教育局義務教育指導監 中島正人氏からは、提言内容について、日常的な研修として評価改善していくこと、小・中教職員のベクトルの統一と検証改善マネジメントサイクルの大切さ、PTAや地域を巻き込んだ組織的な取組の効果についても助言を受けた。

グループ協議内容については、教育課程編成に向けた小中一貫教育の連携した取組について、小・中で統一した指導方法であれば主体的な学びへと変化した授業スタイルを確立することができること、学びや指導の連続性は、特に中学生の自己肯定感が上がりwell-being（持続的幸福感）の実現につながるなどの助言を受けた。また、校長のリーダーシップについて、小・中の校長同士が目指す子供像を共有し、地域の子供たちを育てるという信念をもちながら、その意図を先生方に伝えること、さらに、小・中校長間で大まかな設計図を作り、やり方についてはボトムアップ方式で部下職員に任せながら、リーダーシップを発揮することへの期待の言葉をいただいて、分科会は終了した。



論 文

3つの「支援の基盤」を基底に

せたな町立瀬棚中学校 米 田 昌

Ⅰ はじめに

今年度の学校経営において、生徒を支援する教師を意識し、「メタ認知能力の向上」「心理的安全性の確保」「自己決定の場の設定」の3つを「支援の基盤」として掲げた。

その内容や全校26人の極小規模校の小さな小さな実践をつづってみる。

Ⅱ 3つの「支援の基盤」

1 メタ認知能力の向上

OECDが報告した『Learning Framework2030』の「責任ある行動をとる力」の項目には、自己調整力（メタ認知能力）を高めるには、「振り返り」の活動が重要であるとともに、この力は、思春期に飛躍的に成長するとある。

中学生時代は、メタ認知能力を高める絶好の時期なのである。

2 心理的安全性の確保

脳神経科学者の青砥瑞人氏は、工藤勇一氏（元千代田区立麹町中学校長）との共著『自立する子の育て方』で、常に怒られる等の心理的危険状態では、自分を責める、自分を否定する認知の仕方をしてしまうことを、科学的根拠をもとに述べている。正しいメタ認知能力を育てるには、子供が「失敗しても大丈夫」「失敗こそが学び」と安心して取り組める環境をつくることが重要なのである。

3 自己決定の場の設定

本校が子供たちに育てたい資質・能力の1つは自律である。前出の工藤勇一氏は同著で、この力を育てるための有効な実践として、①「どうしたの？」②「あなたはどうしたいの？」③「何を支援してほしいの？」という「3つの言葉がけ」を紹介している。学校の主役は子供なのである。

Ⅲ 卒業までに育てたい力

上記の支援を基盤とし、卒業までに育てたい力（態度）を以下のように設定した。

1 問う力

- ・既習内容や常識やセオリー等と比較し、ズレに気付いたり、疑問に思ったりする
- ・「振り返り」から調整する視点に気付く

2 説明力

- ・信頼できる知識や情報を収集し、有効に活用する

- ・言葉や技能を使いこなし、目的意識や他者意識をもって説明する
- ・ルールを踏まえて建設的に主張する

3 実行力

- ・感情をコントロールする
- ・意見の対立や理解の相違を解決する
- ・見通しをもって計画的に行動する
- ・目標を達成するために、他者と協働する

Ⅳ 小さな小さな実践～Aさん、苦手を克服～

中2の女子生徒Aさん。彼女は人前で失敗したり、できないことを見られたりするのに強い抵抗感をもっていた。そのため、1年生時、部活では上手くできない自分を恥ずかしがり、お腹を押さえて壁にうずくまる毎が続いた。運動会でも練習時から腹痛を訴え、当日は登校したものの参加できず早退してしまった。その後、Aさんは苦手なことを目の前にすると手が震えてしまう等の症状も出るようになった。

今年度の運動会では、支援の基盤を基底に、育てたい力を培うため、「運動が苦手な人も得意な人も生徒全員が楽しめる運動会」という課題を生徒に提示した。

生徒たちは、種目選定やルールづくり等で、試行錯誤しながらこの課題を意識して取り組んでいた。

一方、Aさんは今年も腹痛を訴え、見学の毎が続いた。その間、担任はAさんの様々な困り感や不安を聞き、3つの言葉がけを大事にしながら寄り添ってくれた。また、クラスの友達もAさんに声がけする姿が見られた。

運動会3日前、幾つかの種目に参加できた。そして翌日の総練習では、全種目に参加。問題の当日、朝から登校し、見事に全日程をこなした。Aさんの保護者からは、「富士山級の山を越えた」と安堵と喜びの感想が寄せられた。

その後もAさんは、苦手な取組を目の前にしても向き合い、自分づくりに挑戦している。

Ⅵ 終わりに

今年度の運動会では、Aさん以外の運動の苦手な生徒も、楽しかったと振り返っていた。

現在、本校は、文化祭に向けての準備が進んでいる。文化祭では、「生徒全員で観客全員を楽しませる文化祭」を課題として提示している。

生徒たちの更なる成長を願っている。

文 芸

校長の「進級」

札幌市立東白石中学校 曾 田 政 人

私は小学校6年生の頃、姉の持つ英語の教科書に載っていた「accessory（アクセサリー）」という単語について、それをただどしくも読むことに成功し、その意味をつかむことができた。しかし中学校へ進級した数年後、英語を習うようになってから再びこの英単語に出会ったとき、堂々と「アセッソリー」と読み上げ、姉を驚かせた。「あんた、小学生の頃は読めたのに…」と。

私は少しばかり英語に慣れてきて、おごり高ぶった。強引に「アセッソリー」と読み、それが一体どういう意味をもつ単語なのか、などということは考えもせず、簡単に通過した。小学生の頃は、英語など当時まだ知らぬ遠い世界。それに挑む者としての緊張感がそこにはあった。できていたことができなくなってしまった原因に気付いたとき、自分を恥ずかしく思ったものである。そういえば、ウサギは油断してカメに負け、北風は軽率にして太陽に敗れた。幼子でも知っているこの話を、もう一度かみしめる必要がある。

私の息子が小学校に進学したときのある日、こんな話になった。

「ぼくねえ、足が速いんだ。」

親のひいき目に見ても、どうしたって信じられない話だ。

「だって今日、6年生のお兄さんと一緒に走って、勝ったんだよ。」

なるほど、そういうことか。

「足が速いねって、言われたんだ。」

得意顔にこんな話をした我が子も、時を経て大きくなった。今、彼はあのときの6年生の魂を受け継ぐ人間に育ってくれただろうか。いや、私自身が今、校長職にあってそのような人間としてやれているだろうか。優しく大きく人を受け止めて、気付かれぬままそっと背中を押してやれるような人間として。

進級や進学には期待と不安が付きまとうが、それ故に新たな視点で新鮮に物事を見られるようになるものだ。校長としても、日々進級していけるようにならないといけないと感じている。ただ単に流れに押されて、時間に身を委ねるだけの進級にならないように自戒したい。

文 芸

郷に入っては郷に従え

標茶町立標茶中学校 富 田 和 幸

「郷に入っては郷に従え」。これは、自分が訪れた土地や環境に適応し、その地域の風習や習慣に従うべきであるという教えである。また、人々が新しい場所や異文化に触れる際に、柔軟な態度で受け入れることの重要性を示している。

私は、平成5年28歳のときに、関西から教員として、道東釧路の地に降り立ち、今年でちょうど30年を迎えた。北海道に来る前に、テレビドラマ「北の国から」を全シリーズ、レンタルビデオ店で借り、十分な予習はしてきたつもりであった。しかし、-20℃を下回る冬の気温、時には膝下ぐらいまで積もる雪。ママさんダンプの存在すら知らなかった私が慣れない手つきで行う除雪作業。関西に居るときには、経験することがなかった大きな環境の変化に戸惑ったことは当然至極のことである。

「住めば都」と、誰しもが言う。今では、冬の寒さや多雪も当たり前と思い、道路を突然鹿が横切ったり、大晦日におせち料理を食べたり、節分の日に落花生をまくことや8月7日が七夕という風習にも違和感がなくなった。まさに、この北の大地に順応し、郷に従い、道産子になったと思う。

しかし、唯一変わらないのが「言葉」である。30年

経っても、「なまら」や「～だべさ」等の言葉は絶対に私の口からは出ない。逆に、「～やん」とか「～ちゃう?」「ほんまに?」等の関西弁で学校でも家庭でも過ごしている。関西の雄、杉本高文氏（明石家さんまさん）や女帝上沼恵美子さんは、何年経っても、言葉を変えず、関西スタイルを維持し続けている。まさに天晴れである。これは、「郷に入っても郷に従わない」姿である。この姿勢の根幹にあるのは、郷土への愛や誇りではないだろうか。

北海道の教育理念は、「自立」と「共生」である。この「共生」の意図するところは、「ふるさとへの誇りと愛着をもち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む」である。また、平成29年には、「北海道の魅力と価値を再発見し、北海道を誇りに思う心を育み、より豊かな北海道を築き上げること」を期して、「道みんなの日」が条例で制定された。

現在、この北海道で学ぶ多くの子供たちも、やがて、進学や就職でこの地を離れることがあると思う。しかし、どこに行っても、自分のふるさと北海道に愛と誇りをもって、力強く生き抜き、自分の良さを発揮し、社会で活躍してくれることを強く願う。



コミュニティ・スクールの導入

小樽市立向陽中学校 小 竹 雅 浩

すでに全国的に導入が進んでいる学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）であるが、小樽市においては、現在のところ導入率は65.5%である。本校においては、令和2年度に地域住民、保護者、教職員を対象とした説明会が実施され、令和4年度に正式に導入された。今後は全ての学校への導入が進められることとなっている。

昨年度は、委員の選出を経て、計3回の学校運営協議会が開催された。委員は、元学校評議員の方たちに加えて地域の有識者、保護者代表のPTA会長、そして学校から校長と教頭が入って構成された。1年目ということもあり、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の再確認と会則の確認、学校経営方針に対する承認、学校関係者評価、学校運営に関する意見交流等を主な議題として、熟議を意識して行われた。

2年目を迎えた今年は、1学期に第1回の学校運営協議会を開催し、すでに承認されている学校経営方針を再確認し、学校運営協議会として具体的にどのような活動ができるか、どのようにして学校と地域を結んでいけるかということについて熟議を行った。例としては、生徒の活動の支援をお願いできる人材、地域の

ニーズや学校評価に基づいて地域で子供たちが活動できる場面の有無などである。本校は現在全校生徒88人の各学年1クラスで、小樽市内では小さな方になる。校区にはもともと2つの小学校があったが、子供の減少によりうち1校が5年前に閉校している。そういったこともあり、話し合いを進めていく中で、他の地域と同様に高齢化が進み、地域を限定した時には人材確保は難しいといったことや町内会においても役員の高齢化と新型コロナによる活動の自粛や休止が続き、現在その再構築に向けて検討していることがわかった。

検討を進めていく上で様々な課題があることが再認識され、引き続き検討を進めていくことが確認された。すでに学校運営協議会が機能している学校からすると今頃という感もあるかもしれないが、まずは「できることから」という意識で、「子供たちのために」を中心に据えて、熟議と協働の機能を大切にして進めている。また、小学校はすでに令和2年から導入されていることから、小学校運営協議会との情報交流や連携を図ることも今後視野に入れ、少しずつ前進することができればと考える。



生徒指導観から思うこと

釧路市立美原中学校 鈴 木 穰

昨年12月に、生徒指導提要が12年ぶりに改訂された。通知を受け、教頭や生徒指導主事とともにオンライン行政説明を視聴し、社会の変化に応じた生徒指導の在り方や考え方について知り、自校の生徒指導の充実を図るべく動き出さねばと思った。ちょうどこの時期、令和5年度の学校経営方針を作成するにあたり、積極的な生徒指導への一層の充実を喫緊の課題として捉えていたところでもあった。

改訂では、課題対応のみならず、児童生徒の発達を支える生徒指導とあった。いわゆる積極的な生徒指導であり、自校の職員も当然その大切さは理解している。しかし、常に意識されているかということ必ずしもそうではない。例えば「いじめ」である。昨年度提出された人事評価シートの「Ⅱ業績評価『いじめ対応』」には何と記載されていたか。いじめが起きた際の迅速な対処や組織的な対応等については全員が記載されていたものの、未然防止や起きないためにはという視点で書かれていたものはわずかであった。生徒指導というと、即応的というイメージが根強く残っていることに危機感を感じていた。

また、本校の研究では「自己決定の場」をキーワー

ドに授業改革を進めている。したがって目指す授業は、全ての生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場でありたい。例えば、生徒の発言の取り上げ方一つをとっても、決して特定の生徒が発した正答のみを拾って授業を作るのではない。まずは生徒の発言を傾聴し、発言に対して意見を促したり、他の生徒の思考の材料にしたりなど、間違いや失敗を恐れず生徒が安心して発表する雰囲気作りが肝要である。友達の発言を嘲笑したり、冷やかしたりすることを絶対に許さない、教師としての姿勢を全ての教科、全ての教育活動で徹底していきたい。

赴任して2年目、様々な機会を通して職員には訴え続けていることがある。それは、全ての生徒にとって安全で安心な環境、さらには一人一人の生徒を支えるという共通した生徒指導観である。生徒の多様性への配慮・指導の徹底を求め続けてきた結果、少しずつではあるが職員の多様性への理解と受容の高まりを実感しつつある。今後も校長としてマネジメント機能の強化や組織体制の見直し等を図り、支える生徒指導観同様に、私も一人一人の職員を支え、リーダーシップを発揮し続けていきたいと思う。

前期情報

○道教委との意見交換会及び各課懇談会

道教委との意見交換会及び各課懇談会は、8月7日に会場で開催されました。

意見交換会は「教員の新たな研修制度による教員の資質向上と学校経営について」をテーマに、北海道第二水産ビルを会場として開催。道教委からは倉本教育長をはじめ、教育部長ら計14人が出席。道小・道中・道公教からはそれぞれの会長及び役員計39名が出席し、とても和やかな雰囲気意見交換を行いました。続いて各課懇談会は、会場をポールスター札幌に移し、道教委からは関係課の課長以下19人、道小・道中・道公教からは54人が出席し、3つの分科会に分かれ、各地区からの提言や、道教委担当課からの具体的な説明を聞くことができました。なお、詳細については「道小情報・道中だより号外」で報告します。各教育局に対する要望活動の際に資料として活用していただければと思います。

○地区別教育経営研究会

今年は7月26日の宗谷地区のオンライン開催を皮切りに、11月6日の旭川地区(小)まで順次開催される予定です。今年度は、ほとんどの地区で参集しての開催となりました。開催した研修会には、道小・道中

北海道中学校長会 事務局長 三浦英悟

事務局より役員や幹事を派遣し、各地区からの質問に回答するほか、各地区で講師を招いての研修、会員の実践発表や校種別、課題別分科会での研究協議を取り入れるなど、内容が充実してきております。

○第64回北海道中学校長会研究大会小樽大会

9月22日、23日、小樽市民会館、グランドパーク小樽ホテルを会場に、全道から約300人の会員が参加して、4年ぶりに会場で開催されました。大会主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」に基づき「歴史の街小樽より、未来を創る子供たちを育てる」を大会スローガンに充実した大会になりました。

大会初日は、全日中の齊藤正富会長による情勢報告、その後、5つの分科会が行われ、グループ協議を行うなど、熱心な研究協議となりました。

2日目は、全日中提案概要説明、その後、小樽市総合博物館館長の石川直章氏による「地域のくらしと地域の歴史」と題した講演が行われました。

大会全体を通して、今後の学校経営の改善に資する大きな成果を得た大会となりました。岡本清豪実行委員長を中心に主管された小樽市中学校長会の皆様から感謝申し上げます。

道中事務局日誌

2023. 6. 3～9. 30

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
6	5	月	日本教育公務員弘済会北海道支部幹事会・運営委員会(三浦)	13:45	ホテルライフポート札幌
	6	火	第3回小中合同研修会(五役)	17:00	道小事務局
			第64回北海道中学校長会研究会小樽大会事前挨拶(五役)	14:00	小樽市役所・小樽市教育委員会
	8	木	北海道公立学校教職員互助会(森田)	10:30	損保ジャパン札幌ビル
	10	土	日本教育会北海道支部第45回総会研修会Web(河村)	10:00	自校
			北海道PTA連合会総会(森田)	13:00	ポールスター札幌
	15	木	令和5年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰(文部科学大臣表彰)に係る被推薦者の選考会議Web(田丸)	10:30	自校
	16	金	北海道中学校体育連盟臨時常任理事会Web(笹川)	10:00	自校
	19	月	筑波大浜田教授のアンケート説明会Web(森田、吉本、伊藤、高橋正、坂本、事務所)	9:00	自校
	26	月	7/13合同研修会リハーサルWeb(三浦、吉本、高橋正、田丸、川原、亀田・福井・瀧澤・小嶋・中村理事、事務所)	9:30	自校、道中事務局
7	27	火	北海道中体連第2回副会長会(笹川)	13:30	かでの2・7
	29	木	北海道公立学校教職員互助会 第2回理事会(河村)	10:30	損保ジャパン札幌ビル
			道学校給食研究協議会総会・研修会(鏡)	14:30	北海道学校給食会
	30	金	第4回事務局研集会Web(五役、筆頭副会長、各部幹事、専任職員)	15:00	自校・事務所
	10	月	中学校技術・家庭免許状取得のための認定講習検討会議Web(高橋正・農田)	9:30	自校
			小中学校免許状併有のための認定講習検討会議Web(河村)	11:00	自校
	13	木	道中研究大会合同研修会Web(道中役員:森田、徳増、三浦、吉本、遠山、高橋(正)、田丸、川原、事務所)(実行委員会:岡本、村上、伊藤、高橋(恒)、村中)(各分科会:提言者、司会者、運営者)(次期開催地:オブザーバー2名)	13:00	自校、道中事務局
	14	金	第9回北海道教育推進会議(森田)	10:30	札幌 かでの2・7
	18	火	第4回小中合同研修会(五役)	11:00	ホテルライフポート札幌
			小中合同事務局研修会(五役、各部幹事、事務局)	13:00	
			小中合同事務局学習会(五役、各部幹事、事務局)	15:15	
	20	木	第1回学校給食広報編集委員会(鏡)	14:00	北海道学校給食会
	22	土	高校総体開会式(森田)	10:00	きたえーる

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
8	24	月	北海道学校保健審議会(河村)	15:00	道庁別館 教育委員会室
	26	水	地区別教育経営研究会【宗谷地区】Web(野口) 令和5年度第1回公立学校共済組合北海道支部運営審議会(伊藤) 北海道学校給食研究協議会学校部会総会研修会(鏡)	13:00 自校 14:00 ホテルライフオート札幌 14:00 ホテルライフオート札幌	
	28	金	全日中第1回副会長会(森田) 北海道高等学校奨学会評議員会(高橋正) 令和5年度第1回北海道社会教育委員の会議兼第16期北海道生涯学習審議会Web(田丸)	14:00 全日中会館 13:30 ガーデンパレス 14:00 自校	
	1	火	地区別教育経営研究会【旭川中】(森田, 山田) 地区別教育経営研究会【小樽地区】(伊藤, 柴田) 地区別教育経営研究会【上川地区】(河村, 高橋(正))	10:00 旭川市大雪クリスタルホール 13:00 小樽市ジブラルタル生命ビル3F 13:30 旭川市上川教育研修センター	
	2	水	第1回教員育成協議会Web(河村)	10:00 自校	
	3	木	地区別教育経営研究会【後志地区】(吉本, 柴田)	8:50 倶知安町ホテル第一会館	
	7	月	道教委との意見交換会 (五役, 1.3.4.5ブロック副会長, 野口, 坂本, 山田, 鏡, 小森, 工藤, 細谷) 道教委との各課懇談会 (五役, 1.3.4.5ブロック副会長, 野口, 坂本, 山田, 鏡, 北村, 松橋, 田丸, 川原, 小泉, 柴田, 墓橋, 山下, 袋田, 亀田, 瀧澤, 能戸, 佐藤) 道教委との教育懇談会(同上)	14:00 第二水産ビル 15:20 ホテルポールスター札幌	
	8	火	地区別教育経営研究会【日高地区】(鏡) 北海道学校教育情報化推進計画策定に係る有識者懇談会Web(河村)	18:00 ホテルポールスター札幌 9:30 新ひだか町公民館大集会室	
	10	木	北海道小・中・特支学校女性管理職会研究大会空知大会(森田) 北海道小・中・特支学校女性管理職会研究大会空知大会(河村)	10:00 自校 9:15 岩見沢市民会館	
	17	木	第10回北海道教育推進会議(森田)	18:00 グリーンランドホテルサンブラザ	
	21	月	令和5年度帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業運営協議会Web(伊藤)	15:00 札幌 かでる2・7 14:00 自校	
	22	火	第4回小中合同研修会(五役)	10:00 道小事務所	
	23	水	第2回五役研(五役, 各部副部長, 専任職員)Web	10:30 自校	
	24	木	地区別教育経営研究会【釧路市・釧路地区】Web(吉本, 高橋(泰))	13:00 自校	
	25	金	地区別教育経営研究会【根室地区】(河村, 小泉) 北海道学校給食研究協議会学校部会研修【アレルギー講習会】(鏡)	9:00 中標津町トーヨーグランドホテル 13:30 奈良県立教育研究所	
	30	水	第5回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 各部幹事, 専任職員) 全北海道教職員組合役員との懇談(三浦, 河村)	10:30 ホテルライフオート札幌 14:00 道中事務所	
	31	木	地区別教育経営研究会【胆振地区】(高橋(泰))	10:00 登別市民会館	
9	6	水	北海道犯罪のない安心で安全な地域づくり推進会議Web(柴田)	13:00 自校	
	8	金	北海道小学校長会教育研究渡島・北斗大会(長谷川) 北海道青少年育成大会「少年の主張 全道大会」(山田, 小泉)	9:15 北斗市総合文化センター 10:00 かでる2・7	
	12	火	学校における働き方改革推進会議(森田)	14:00 道庁別館	
	13	水	第3回副会長研修会Web(五役, 副会, 専任職員) 第3回理事研修会Web(五役, 副会長, 地区理事, 幹事, 専任職員)	14:00 自校, 道中事務所 14:45 自校, 道中事務所	
	14	木	北海道公立学校教頭会研究大会道北大大会(森田) 北海道麻しん及び風しん対策専門会議Web(吉本)	18:30 旭川トーヨーホテル 10:00 自校	
	15	金	北海道公立学校教頭会研究大会道北大大会(森田)	10:00 道北アークス大雪アリーナ	
	19	火	地区別教育経営研究会【オホーツク地区】(伊藤, 松橋)	13:00 北見市端野町公民館	
	20	水	「北海道教育の日」道民運動推進協議会 第2回幹事会(吉本)	15:00 ホテルライフオート札幌	
	21	木	第64回北海道中学校長会研究会小樽大会【前日準備, 各リハーサル】	14:00 小樽市民会 グランドパーク小樽ホテル	
	22	金	第64回北海道中学校長会研究会小樽大会【開会式, 教育情勢報告, 分科会】	10:00 小樽市民会 グランドパーク小樽ホテル	
	23	土	第64回北海道中学校長会研究会小樽大会 【全日中提案概要説明, 記念講演, 閉会式】	9:00 小樽市民会	
	25	月	令和5年度第1回公立学校共済組合北海道支部運営審議会 保健事業検討委員会(伊藤)	14:30 札幌緑苑第2木下ビル	
	26	火	地区別教育経営研究会【留萌地区】(森田, 坂本)	10:00 苫前地区コミュニティーセンター	
	28	木	地区別教育経営研究会【渡島・函館地区】(森田・北村)	14:00 函館市民会館小ホール	
	29	金	第3回五役研(五役, 各部副部長, 専任職員)Web	10:30 自校, 道中事務所	

発行者 会長 森田 聖吾 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目

敷島プラザビル4F

北海道中学校長会

TEL011-251-1344 FAX011-251-1302

編集者 道 中 情 報 部 <http://www.dochu-kochokai.jp/>